

JADTA News

No. 67

2005年8・9・10月号

梅田忠之先生追悼



平成 17 年 5 月 17 日、当協会初代会長の梅田忠之先生が、永眠されました。
81 歳でした。

先生は平成 4 年当協会の設立にご尽力され、初代会長に就任しました。

心からご冥福をお祈りいたします。

札幌大会の案内は、8・9 ページです。

奥様よりのお手紙

平成 17 年 7 月 3 日

梅田美知恵

去る 5 月 17 日、主人は静かに安らかに永眠いたしました。19 日葬儀には 350 名余りの大勢の方々に見送られて旅立ちました。その後、少しずつ周りを整理してありましたらメモの一部が見つかり、「ダンスセラピーの対象を大きく広げて 将来の発展を図り 患者さんの幸を」と書かれておりました。20 年ほど前に書かれたものと思われまます。主人はいつも患者さんの幸、ダンスセラピーの発展を願っていたと強く感じ、7 月 1 日 日本ダンス・セラピー協会へ金 300 万円也寄贈させて頂きました。

主人が若い頃は、毎日の診療の午前と夜間の合間には医師会の付属看護学校で耳鼻科の講義をしたり、医師会の学術広報係を担当したり、夏季には市内の保母さんの休暇利用の講習会で心身医学と耳鼻科の講義に行くなど、休む間なしに動いていたように思います。当時心身医学を理解していただくために、コピーをつかって皆さんに渡していたものを同封させていただきます。

趣味では謡曲を習い、障子の紙がふるえる位の大きい声を出さねば駄目なんだといていたこともありまました。

又、小型船舶操縦士の免許を取り、琵琶湖を風に乗ってヨットで走っていた頃もありまました。

日本ダンス・セラピー協会の皆様方に賜りました御厚情に主人に代わり深謝申し上げます。

本日 7 月 3 日中陰法要を営み忌明いたしました。

※梅田忠之先生の奥様から町田章一事務局長への私信です。奥様の了解のもとに掲載させて頂きました。

略歴

- 大正 13 年 1 月 1 日 誕生
- 昭和 19 年 9 月 京都大学附属医学専門部卒業
- 10 月 医師免許証取得
- 〃 陸軍軍医学校入学
- 20 年終戦後 引揚援護局勤務（湯の川陸軍病院）函館
- 22 年 8 月 京都大学医学部耳鼻咽喉科入局
- 27 年 11 月 自宅開業
- 12 月 京都大学より医学博士号取得
- 39 年 4 月 京都大学教育学部心理学聴講生 1 年間修了
- 50 年 4 月 九州大学医学部心療内科研究室 1 年間修了
- 55 年 ダンス教室開設
- 62 年 5 月 心身医学科認定医
- 平成 4 年 日本ダンス・セラピー協会初代会長
- 17 年 5 月 17 日 永眠。健暁院醫篤忠亮居士



第 2 回京都大会にて。手前中央が梅田先生、その向かって左側が奥様

追悼の言葉

There are special people in the world who do special things. Dr. Umeda was one of those. His understanding of dance used in therapy led to his support of those wanting to do the work as well as his own gentle presence. After the earthquake in Kobe, he led groups of people in the shelters in order to enable them to find strength and joy amidst the devastation. He was certainly a strong support to the development of JADTA. But above all, I remember his great hospitality when my husband and I visited Kyoto many years ago. Spending time in his studio and meeting his family are special memories to always keep in our hearts. Dr Umeda will be missed by many.

I feel privileged to have met him and send my sincerest condolences to his family, his colleagues, and to the dance therapists of Japan who received so much from a giant who had such humility.

世界には特別なことを成す特別な人々があります。梅田先生もそのお一人でした。梅田先生は、ダンスをセラピーに用いるということを理解され、ダンスセラピーをおこなおうとする人々を支えてこられました。そしてそのお仕事ぶりは、先生ご自身の寛容なお姿に通じるころがありました。阪神大震災の後、彼は荒廃した中で、強さや喜びを見つけてもらおうと、避難所の人々のグループを率いたのです。彼は日本ダンス・セラピー協会の発展を、実に力強く支えてきました。でもそれ以上に、私は何年も昔、夫と私を京都に招待してくださったときの、とても温かなもてなしを受けたことを思い出します。彼のスタジオで時を過ごしご家族にも会えたことは、私たちの心に残る特別な思い出です。私たちは梅田先生にもうお会いできないことをずっと寂しく思い続けることでしょう。

彼に出会えたことの幸運に感謝し、ご家族の皆様、ご友人、素晴らしい人間性の偉大な彼から多くのものを受け取った日本のダンスセラピストの皆さんに、心からの哀悼の辞を送ります。

日本ダンス・セラピー協会顧問
シャロン・チェクリン

梅田先生からのお話

梅田先生がお亡くなりになったことを最近知り、大変驚きそして悲しい気持ちでいっぱいです。

不思議なことに、今年先生から頂いた年賀状がおりに触れて机の上や引き出しから現れ、何回も目に付いていたのです。他の年賀状は小さな冊子に入れてあり、私は無意識にこのはがきを大好きな祈りの像に立て掛けていました。このことは今でも不思議に思っています。

梅田先生とは、以前からダンスセラピー大会でお目にかかった時ご挨拶を交わす程度でしたが、第12回岡山大会を主催しました時、先生を身近に感じられたのは総会の時でした。会合も終わろうとしていた時、梅田先生がふっとお立ちになり、非常に淡々とした静かな口調で語り始められたのです。

「あれは、戦後の焼け跡も残る東京でした。敗戦で皆が暗い気持ちになっていた頃です。ある夕方有楽町あたりを歩いていた時、明るいライトのともる建物の中で、米兵や日本人、とにかくいろいろな人達はその建物に入っていくので、私も覗いてみると、皆が実に楽しそうにダンスを踊っていました。何もかも無くなってこれからどうやって生きていこうかという時に、踊っているのです。僕は初めてこの時ダンスが強く印象に残ったのです。そして平和を誰もが待ち望み、それがやってきた喜びが皆の表情に溢れていたんです。…」

私は、このようなお話を聴いているうちにどんどん感動の波が大きくなり、涙が溢れてきて止めることができなくなりました。「これから生きていくのにどうしていけばいいのか、食べ物も十分なく、仕事も見つからず…」といった大変な状況であるにもかかわらず、ダンスを楽しんでいる人々…私の頭の中は空想で広がっていきました。そして、ダンスの根源になみなみと流れる「愛情」を先生の淡々としたお話であるがゆえに、強く感じていました。

この頃、大会の裏方としてさまざまな準備に追われ、また大会当日もいろいろなミスがあったりして、私の神経はカリカリしていてまた忙しさでゆとりもない状態でした。そこに先生のお話…「ああ、私はダンスの素晴らしさを忘れかけていた」とはっと気づきました。

それからです。梅田先生のお話をもっと聞きたい、「耳鼻咽喉科のお医者さまが、なぜダンスセラピー



に興味を持たれたのか」、「ダンスの何が彼を魅了しているんだろう」などいろいろなことを知りたくなりました。岡山大会に出席して下さったシャロンとハリス・チェイクリン夫妻にこの感動を話していると、「香代子、出来るだけ早く彼に会いに行きなさい。そしていろいろお話を伺ってくることはとても大切なことだと思うよ」と後押ししてくれました。

半年ほど経ったでしょうか、私はたまたま京都に行く用事が急にできたので、梅田先生にお手紙を出しました。そして再びお会いできる日を約束したのです。奥様である美知恵先生と内気で照れ屋の先生にお願いしてビデオインタビューさせていただいたお話の中の一部をお伝えします。

患者さんそして人の話をまず聴くこと

終戦直後で薬もない時代、先生は大学病院で咽頭結核で苦しんでいる患者さん達を看ていた時のことです。先生はまだ若くて、このような苦しんでいる人にどう接していいものか困っていました。患者さん自身、もうそれほど長生きできないと思っていたのか、実に本音でいろいろな話をする。先生はそれに対して成す術もなく、静かに聴いていましたが、話した後の患者さんの表情が和らいでいることに気づいていきました。先輩の医者が出て、彼の回診後患者さんの表情が生き生きしていることも心に残ったそうです。

そして、精神身体医学（心身医学）に興味を持つこととなります。その後、先生は心身医学の勉強のため九州に毎週通われることになり、精神身体医学学会にも参加されるようになります。仕事を終えてすぐに夜行列車に乗り九州へ、そしてまた夜行で戻

り翌日病院で診察といった生活が20年以上続きました。それから、セルフ研究会を京都でも開催し、ジャンルを問わずいろいろな人達が参加し、研究会を続けていきます。

初めて京都で精神身体医学研究会を主催した時は、会場探し、宣伝、参加者の呼びかけ、講師のお世話等、会員の人達と準備のため裏方としてよく動いたそうです。またこの間実にいろいろな人達の話をお聴いて教えてもらうことが本当に多かったと話しておられます。

リラクゼーションとダンス

耳鼻咽喉科で心身医療に、リラクゼーションを取り入れて患者さんに試みていた頃、佐伯敏子先生のアメリカン・ダンスと出会います。実際に踊ってみると、爽快感が身体を突き抜け、こんなに楽しいものはないと思ったそうです。また、自分の表情が和やかで笑顔になっている。恥ずかしがりやの自分がどっかに行ってしまった感じ。こんなに汗を気持ち良くかき、気分もいいのだから、これはぜったいうちの患者さん達にもいいに違いないと考えたそうです。

ダンスを通して、その効果もアンケートやエネルギー消費量など科学的な検証も怠らず、心身の変化と効果を研究されています。詳しくは、「ダンスセラピーと催眠療法」—梅田忠之著—ふたば書房をお読みになってください。

医院のそばにダンス・スタジオを造るまでは、近くのセンターなどを借りて行っていたそうです。奥様と二人で会員の方達が来る前に机や椅子を片付け、踊れる場を整え、終わった後のかたづけもずっと続けてこられました。

謙虚さと行動力

梅田先生と奥様の美知恵先生お二人とも、お会いした時は現役の耳鼻科のお医者さまで診察をされていることを聞き、私は大変勇気付けられました。また、阪神大震災ではすぐ救護で神戸に行かれ、多くの方達の治療をされてきたそうです。東京大空襲から、今日の大きな災害に至るまで、先生はごく自然に救護に足を運んだことを話されました。決して自分を誇らしげに言うのではなく、また同情でなく「自身の持てるちからをただ使ったこと」のように

…

また、ずっとアメリカン・ダンスの会場準備等、

ボランティアで何年もご夫婦で手伝ってこられたことからお二人の謙虚なお姿がうかがえます。

ダンススタジオ

長い時間お話を伺った後、ご夫妻で隣にあるダンススタジオに案内してくださいました。スタジオができてもうずいぶん時が過ぎているのに、とても手入れが行き届き古さを感じさせません。床もしっかりとして足ざわりが良く、梅田先生がおっしゃるのに腕のいい大工さんが何十にも板を重ねて通常の倍ほどの厚さだそうです。

ダンスのスケジュール表が丸でいっぱい埋まっているのを見ているうちに、私はうれしくて踊り出し、先生も楽しそうに身体を左右に振りながらリズムを取っています。私は先生の腕を取り二人でステップを踏みました。奥様と先生の「スタジオへの愛しさと誇り」がここにいっぱい広がっているのが伝わってきました。「いつでもダンスにいらっしゃい。上の階は宿泊もできるような布団もあるし、お茶も沸かせる設備もありますから」

梅田先生は池見先生と同様、日本ダンスセラピー協会の礎として大きな存在であったと思います。先生は心身の健康にこれは大切だと思うことは「垣根を越えて」自ら教えを受け、そして学び、それをまた多くの方々に伝え広げていきました。ダンスセラピー協会発足前の頃は、まだまだダンスセラピーに関する情報も少なく、実践する人も多くなかった頃です。そのような時期に、協会の支えとなって啓蒙されていった梅田先生の「大らかな心とやさしさ」に勇気付けられた方々がいっぱいいらっしゃることでしょう。

私もその一人です。短い期間の出会いでありましたが、京都でのあの豊かな時間をご一緒させていただき、とても幸せでした。(梅)「京都の夏祭りもいいですよ。またとにかくいらっしゃい。」(荒)「もちろんです。この日だけでは、足りません。先生からもっといろいろなお話を聴かせて頂きたいです。またおじゃまさせてもらいます。ダンスも参加させてください。」

夕方になり少し肌寒くなってきた頃、先生はご自身が少し風邪を引いているにも関わらず、バス停まで来て、「またお会いしましょう」としっかり握手して最後までお見送りしてくださいました。ずっと見えなくなるまで先生は、そこに立っておられまし

た。

あれから、再び京都に行くこともなくいつの間にか時が流れ、先生の訃報を知りました。残念でなりません。

先生のご冥福をお祈りいたします。(合掌)

荒川香代子

梅田先生と洛北紫野の

「やすい花」に遊ぶ

10年ほど前になるでしょうか、京都洛北にある今宮神社の「やすい祭り」を梅田先生のお誘いでお参りしました。都に蔓延した疫病を鎮めるために朝廷によって建てられた社の境内は、時折桜の残り花が散り舞うなか、赤毛と黒毛の頭を付けた鬼が太鼓と笛の音とともに跳ね踊るさまは厄霊の荒ぶる様そのものの迫力でした。5人ほどの鬼舞人の翻る朱の袖の動きは、時折風に舞う桜花を錐もみに宙に舞い上げ、あたりの空気をかき乱すかのようでした。

「踊りに厄払いの祈りが込められているのですね。そして散る桜花が最後に静かに大地に鎮まるように、あたりの空気は浄化されるのですね」などと、踊りに込められた人々の想いを想像しながら、舞踊の大きな力について2人で改めて感心したものでした。

その後、これらの鬼たちを従えた行列は大きな傘を先頭に街を練り歩き、通りに集まった人々は代わる代わる傘の中に身を寄せ、1年間の厄疫を払ってもらいます。先生も私もあたりを舞う桜花に厄疫を託す気持ちで、でもちょっと照れくさいような感じもしながらちょっとだけ傘の中に入れていただきました。「これで1年間の厄払いができました、フフフ・・・」と先生はにっこりされました。いつもの優しい先生の笑顔でした。

その後も先生は心身医療者として阪神大震災時のボランティアをはじめ、京都を中心とした地域活性の行事にいつも積極的にダンスで応援や支援をされていました。そのような経験や体験はきちんと報告文としてまとめられ、私にも見せてくださいました。心身療法とダンスの関係を先生はゆったりとした構えの中で実践と研究を統合していらっしゃいました。

4年前、英二先生に続いて日本のダンスセラピー著書2冊目「ダンスセラピーと催眠療法」を出版されました。私たちにとって大事な理論と実践の書です。出版お祝いのパーティは京都弁がいっぱいの楽しい会でしたが、先生は奥様ともどもほっとしたように安らいだうれしそうな表情をされていました。

今年の4月から私は名古屋での新しい仕事になかなか慣れることが出来なくて、奈良に戻る余裕もなく振り回されるような毎日を過ごしていました。そんな5月17日の、あまりに突然の梅田先生の訃報は、悲しさに襲われる前に、すっかり頼りきっていた何か大きな柱をもぎ取られたような思いが駆け巡りました。

とるものもとりあえず駆けつけたお通夜の先生のご遺影はどこまでも優しい笑顔で迎えてくださいました。

肩を落とされた奥様のお悲しみとお寂しさが強く胸に迫って、梅田先生のご逝去の現実をようやく自分を納得させました。

梅田忠之先生、どうぞやすらかに眠りください。合掌。

そして、奥様美知恵先生にはお力落としでしょうが、一日も早くお悲しみからお元気を取り戻してくださいますように、心からお祈りしています。

平井タカネ

梅田先生の思い出

初代会長として協会に尽力され、ダンスが心身の健康に与える効果を自らの研究で立証されたにとどまらず、先生ご自身が誰よりもダンスを楽しみ実践されていた姿は今でも忘れることができません。

東京福祉専門学校で開催された協会発足の大会では、梅田先生と手をとってあいダンスを楽しんだ一時は、貴重な思い出となっています。それよりは、毎回の大会でお会いするたびに「鹿島さん」と声をかけてくださり、研究資料をくださったり、思い出は尽きません。

特にそのお話のなかで、「ダンスを研鑽する皆さんに接していると、常に動きが美しく、セラピスト

としてアーティストとして感銘します。」とおっしゃっていたことです。

その言葉は、ダンスセラピーを実践・研究するうえで、大変勇気づけられる言葉となりました。協会の重鎮の一人であった梅田先生がいらっしゃらないことは、とても寂しいことですが、先生がこよなく楽しまれたダンスセラピーを一人でも多くの人々に伝えていくことが、残された私たちの使命であるとおもっています。

鹿島由起 鹿島有子

梅田先生の笑顔

突然の訃報に耳を疑いながらも、お通夜の席で改めて祭壇に飾られた梅田先生の笑顔を拝見しながら、先生とのお別れが現実であることを実感しました。私にとって梅田忠之先生はいつも笑顔で「崎山さんががんばってますね～あなたのような人はもっと活躍してください」と、事あるごとに優しくはげましてくださったことがくり返し思い出されます。いつもにこにこされていて、あの優しい言葉かけが梅田先生の温かなお人柄を象徴しているように思うのです。

京都の梅田医院でダンスセラピーの先駆的な試みをなされていることを、かなり昔に新聞で目にし、実際に梅田医院を訪れ一緒にセッションに参加させていただいたことが、自分でも驚くほど思い出されます。スタジオにいる梅田先生は、写真で拝見したよりも、ずっとずっと柔和な笑顔で私を迎えてくださり、後年いつお会いしてもその笑顔は変わりませんでした。確か大阪大会のときでしたか、奥様でいらっしゃる梅田美知恵先生ともお話する機会に恵まれたとき、あの柔らかな先生の笑顔は、美知恵先生に支えられていたことも思い出されます。

一足先に旅立たれた池見先生とおいしいお酒を酌み交わしながら、温かな目で日本のダンスセラピーのこれからを見守ってください。合掌。

崎山ゆかり



梅田忠之先生の訃報に接して

梅田忠之先生の訃報に接し、大変驚いています。一月前まで元気に患者さんを診療していらっしやったそうで、その後、体調を崩し、急に様子が悪くなったということです。

梅田先生を思うと、いつでも優しい笑顔をされていたことが思い出されます。京都という土地柄なのか、先生のお人柄なのか、いつも穏やかでした。それでいて芯のある方で、要所要所をきちんと押さえていらっしやいました。協会設立という最も困難な時期に、初代会長を引き受けて下さったことは、思い出すたびに感謝の気持で一杯です。

「楽しいという感情はすべて健康につながる」という言葉を度々引用し、ダンス・セラピーを楽しい活動にする原動力になって下さいました。ともすれば、科学的、研究的、理論的、訓練的になりがちなものを、明るく、楽しく、味わい深いものへと、方向付けて下さいました。一方では、「心身症および神経症患者に対するダンス療法の効果」『心身医学』第26巻5号431-438、日本心身医学会、1986に見られるように、ダンス・セラピーの効果を科学的に実証するという、最も困難な分野のパイオニアでもありました。

最後に会員の皆様の前に姿を見せられたのは、岡山大会の時でしょうか。敗戦直後の復興の頃のことを話して下さい、いかに平和が大切であるか、ダンスがどれだけみんなを励ましたかを熱心に語り、大きな感動を与えて下さいました。今、手元にある先生の著書『ダンスセラピーと催眠療法』ふたば書房(2001)を拝見しますと、その頃のことを書かれています。梅田先生の優しい温かい活動は敗戦の焦土の中という最も悲惨な状況から生まれたのだと、その奥の深さ、動機の深淵さに心を打たれます。

私達の協会はこれからますます発展して行くと思いますが、岐路に立つ度に梅田先生のことを思い出し、先生だったらどんな風におっしゃるだろうと考え、より良い方向を模索して行こうと思います。私達の初代会長、梅田忠之先生のご冥福を、感謝と共に祈り申し上げます。

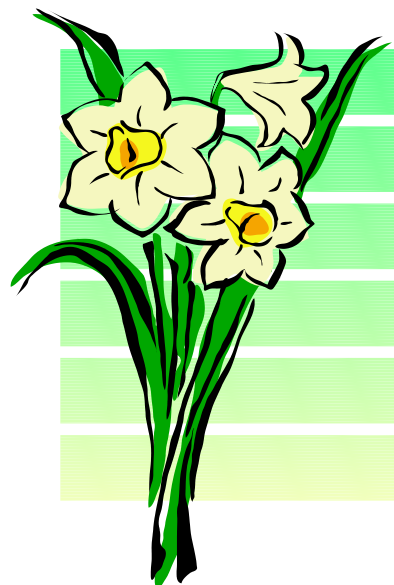
町田章一 (事務局長)

会長の近況

当協会の英二三枝子会長は今年の2月下旬に体調を崩し、帝京大学付属病院に入院なさいました。その後、初台リハビリテーション病院に転院し、6月に無事に退院なさいました。現在、体調は順調に回復し、自宅で静養していらっしやいます。

この度の梅田忠之先生の訃報に対し、深く哀悼の意を述べたいが、できれば失礼させて頂きたいということでした。梅田先生の優しい笑顔を偲びながら、京都大会、岡山大会のこと、池見西次郎先生とのことなどを話していらっしやいました。また、当協会に対する多額の寄付について、大変感謝をしていらっしやいました。ありがたくお受けし、梅田忠之先生の遺志を生かして行くようみんなと相談しようと話していらっしやいました。

(文責 町田章一)



第14回札幌大会へのお誘い

大会実行委員長 葛西俊治
(札幌学院大学人文学部臨床心理学科)

六月末、大会発表を希望される方からの申込み締め切りを迎えました。幸いなことに口頭発表5件、ワークショップ発表12件の発表申込みを頂きました。発表者・連名発表者・タイトルは以下の示すとおりです。このように日頃のダンスセラピー活動の成果を北海道の地で発表していただけることに喜びと格別の力強さを感じているところです。

大会プログラムの詳細は、近々、<http://www.jadta.net> のサイトでお知らせできる運びですが、発表者による発表日時概要は下記を予定しています。口頭発表は20分、ワークショップ発表は大会運営上の事情により、90分プログラムと60分プログラムとがあります。また、大会に参加していただけますと、最大7種類のワークショップ発表を体験できる配置となっております。研究成果の詳細を紹介していただく口頭発表がワークショップ発表と重なっている部分は、大会運営上やむを得ないとはいえ、いずれも貴重な発表ですので「どちらにしてももったいない」と嘆息しております。

9月2日(金)に開始となる「竹内敏晴ワークショップ からだとことばのレッスン」はすでに定員に達しております。前夜祭のイベント「アイヌ刺繍・舞踊家の小田智子さんによるトーク」、そして「舞踏ビデオ、舞踏ライブ」を楽しんでいただき、翌日の午後には「竹内敏晴・座談会」を企画しております。1980年代から今日に至るまで、日本の身体・心理関係の理解と実践をリードされてきた竹内敏晴氏に21世紀の今日の「からだ」「おどること」について語っていただく予定です。

9月初頭の北海道は本州と比べるとずいぶんと涼しい夏の時期です。その時期に、発表者そして大会参加者のみなさんと一緒にダンスセラピーについて日頃の研鑽を共有できることを心から楽しみにしております。この機会に是非、北海道へおいで頂きますようお願い申し上げます。

◎口頭発表5件 (発表時間20分質疑5分)

9/3 午後

- 「身体表現のグループワークにおけるイメージコミュニケーションの成立過程(2)― 表現役割とコミュニケーション能力との関連性について―」
発表者：成瀬九美 (奈良女子大学文学部)
- 「子育て支援におけるダンスセラピーの活用とその効果について― 英二式ダンスセラピーをもちいて―」
発表者：高橋 実 (福山市立女子短期大学)
連名発表者：金川昌恵 (広島県立東高等学校)
- 「ダンス・パフォーマンス経験における自尊感情と不安傾向の関係」
発表者：林 信恵 (大阪体育大学)
連名発表者：北島順子 (大手前短期大学)

9/4 午前

- 「ボディートーク実践における心理的効果について」
発表者：鎮目久美子 (ボディートーク協会)
連名発表者：林 信恵 (大阪体育大学)
- 「マリアン・チェイスによるダンスセラピー実践― 実践の中で大切にされた考えとは何か―」
発表者：後藤美智子 (淑徳大学大学院博士後期課程 大学院生)

◎ワークショップ発表12件(90分発表と60分発表)

9/3 午前

- ◎「からっぽになる」 (90分)
発表者：松永のぶこ (舞踊家)
- ◎「ステップアップ体操を活かした相互交流を目指すセッション― 身体の近接からふれあいへ―」 (90分)
発表者：崎山ゆかり (奈良県健康づくりセンター)

9/3 午後

- ◎「自己調整と自己表現のインプロヴィゼーション」 (60分)
発表者：吉田留幾子 (フリーインストラクター コンテンポラリーダンスカンパニー鼓腹撃壤代表)
- ◎「ヘルスケアとしてのダンス・ムーブメント」 (60分)
発表者：吉村節子 (大阪スクールオブミュージック専門学校パフォーミングアーツ科)

日本ダンス・セラピー協会

第3回研修講座

(既に締切は過ぎましたが、会の活動報告として掲載いたします)

資格取得を目指す皆様の要望にお答えし、今回は下記のように第3回を企画致しました。第1回は資格取得に必要な「ダンスセラピー基礎論」12単位、第2回は「ダンスセラピー実践論」12単位を行いました。第3回は「精神身体医学論」16単位を予定しております。今回は、精神医学と臨床心理学を中心にいきます。

日本ダンス・セラピー協会 会長 英二三枝子
JADTA 資格認定委員会 委員長 平井タカネ
第3回研修講座実行委員会 委員長 大沼小雪
同 副委員長 松原豊
日本ダンス・セラピー協会 事務局長 町田章一

開催日：平成17年7月30日(土)～31日(日)
場所：戸山サンライズ(全国身体障害者総合福祉センター)(東京都新宿区戸山1-22-1)
参加定員：30名
参加費：会員30,000円、非会員35,000円
申込締切：平成17年7月2日

7月30日
9:30～11:30(2H)
臨床心理学総論(1) - 基礎知識(治療者とクライアントの関係など)
小川恵(淑徳大学)
11:30～12:30(1H)
臨床心理学総論(2) - アセスメントを中心に
小川恵
13:15～14:15(1H)
臨床心理学各論(1) 精神療法1 森田療法
増野肇(日本ルーテル学院大学)
14:15～16:15(2H)
臨床心理学各論(2) 精神療法2 サイコドラマ
増野肇
16:15～18:15(2H)
臨床心理学各論(3) 力動的心理療法の理論
尾久裕紀(本協会理事)

9/4 午前

◎「イメージで心と体のリラクゼーションー 空気を流れて流れてー」(90分)

発表者：稲川麻子(ASAKO コンテンポラリーダンスG主催 名古屋大学医学部精神医学教室)

連名発表者：鈴木真美(東尾張病院)

◎「ムーブメントを用いたリラクゼーションプログラムの試みー ライフキャリアデザイン教育への導入ー」(90分)

発表者：北島順子(大手前短期大学)

◎「からだ動く・こころ動く/こころ踊る・からだ踊るー そうか!誰でも踊れるんだ!!ー」(90分)

発表者：堀切紘子(JKダンスアトリエ)

◎「出会いと別れがあなたにもたらすもの」(60分)

発表者：貴船恵子(特別養護老人ホーム「ロイヤルサニー」)

◎「精神科ディケアにおけるリラクゼーションを中心としたダンスセラピーの試み」(60分)

発表者：竹内実花(竹内実花 BUTOH 研究所)

9/4 午後

◎「こころとからだのレッスンー 今、子供たちのからだに起こっていること」(90分)

発表者：照屋 洋(中学校教員・日本演劇教育連盟常任委員)

◎「ダンスに何が出来るかー 小金井病院での実践報告」(90分)

発表者：高見知英美(小金井病院)

連名発表者：鈴木良枝(小金井病院作業療法室)

◎「からだを感じる、わたし、あなた、つながり」(90分)

発表者：林 麗子(名古屋学芸大学ヒューマンケア学部)

(以上のプログラム案は変更される場合があります。詳細はjadtaサイトでご確認ください。)

日時：9月3日(土)・4日(日) (2日に前夜祭)

会場：札幌学院大学(北海道札幌市近郊)

連絡先：〒069-8555 江別市文京台11 札幌学院大学人文学部「葛西俊治 JADTA14」

Fax:011-662-5300 E-mail: sapporo14th@jadta.net

18:30-20:30 懇親会

7月31日

9:15-10:15 (1H)

精神医学総論 症状や病気の分類

大野芳義 (本協会理事)

10:15-12:15 (2H)

精神医学各論 (1) 躁うつ病・小児精神

大野芳義

13:00-15:00 (2H)

精神医学各論 (2) 統合失調症 (社会復帰含む)

浅野弘毅 (東北福祉大学)

15:00-16:00 (1H)

精神医学各論 (3) 認知症 (老人性痴呆)

浅野弘毅

16:00-18:00 (2H)

精神医学各論 (4) 人格障害・神経症

尾久裕紀

18:00-18:30 受講証授与、閉会式

座学形式で行われました。動きを期待された方には申し訳なかったのですが、さすがセラピストを目指す方々で、休憩時間には、それぞれ廊下の手すりを活用して見事なストレッチを行っておりました。最後の講座になった松原先生の時間では、皆様の「動きたい！」という無言の要望に応じて、急遽音楽と簡単な動きを入れていただきました。

以下に、終了時に書かれた参加者の感想の一部を紹介します。

1時間目 生涯教育論「学校におけるところとからだのレッスン」 照屋講師

「ただ動くだけではなく、常に『ところ』を伴った動きをすることが大事」、というお話や「リーダーとして発進していく立場になるためには、色々な勉強をすること」というお話は、本当に実感として受け止められ、自分の心を奮立たせてくれた。

セラピューティックなムーブメントを学級運営に生かしておられること、すばらしいと感動しました。でもその技術以前に先生と生徒たちの関係が深いきづなで結ばれていること、保護者との信頼関係が深いことを拝見してうらやましく思いました。

2時間目 集団アプローチ「グループプロセスとリーダーシップスキル」 平井講師

集団力学について、かつて学んだことなのに忘れていたことを新しく学ばせていただきました。集団がなかなか安定を得られない現在「個」の問題として領域・順序性に抵抗を持つ人が多くなった(社会現象として)からではないかと思いました。

グループの持つ力はすごい。メンバーが互いに刺激しあってよい関係ができること、とてもよくわかります。集団と精神療法的機能、もう少し勉強していきたいと思いました。

3時間目 知的障害領域「知的障害者施設における実践」 崎山講師

知的障害の枠にはめられているところから、その人の本来の能力を引き出してあげたい。障害の重さとその場を楽しめる力とは別ではないか、ということに感銘を受けました。

ダンスセラピーも多種多様な方法があることを理解できました。(ビデオによる)実践例はとても楽しく拝見しました。また、改善のきっかけの場面が拝見したかったのですが、先生と本人とのラポー

ダンス・セラピー第2回研修

講座の報告

大沼小雪

2005年3月19日、20日、戸山サンライズ(東京)において、開催されました。30名定員でしたが、キャンセル待ちが出るほどの申込みがあり、最終的に34名を受付することになりました。講座内容はダンスセラピー実践論12単位で、1回目の基礎論に参加されなかった方の参加も多く、その関心の深さを知らされました。また、参加したいが日程調整がつかないので、是非またやって欲しいという声もきかれました。

実践論の科目と講師は、生涯教育領域2単位:照屋 洋講師、集団アプローチ2単位:平井タカネ講師、知的障害領域2単位:崎山ゆかり講師、高齢者領域2単位:町田章一、精神科領域2単位:大沼小雪・大野芳義講師、身体障害領域2単位:松原 豊講師でした。

実践論ということで、多少動きがあることを予測して、トレーニングウェアを準備された方も少なくありませんでしたが、1回目に引き続き今回も全て

トを深めていかれる様子が分かりました。

4時間目 高齢者領域「高齢者のためのダンスセラピー」 町田講師

具体的な準備運動が印象に残りました。回想法などもからめて、面白い講義でした。どのような動きができるのか、わからなかったのですが、ビデオは大変参考になりました。

実践していく上での、具体的課題が大変わかりやすく、これからの取り組みに生かしたい。高齢者の特性をどのように受け止めていくか、またその上で時間と安全についての配慮を学んだ。

肩の力を抜いて考えよう。年齢にあまりこだわらないで各人の力を見分けるように心がけたい。

5時間目 精神科領域

「精神科治療」 大野講師

アルコールで脳細胞が死んでいる、頭の痛い話でした。声は聴覚、脳のみではなく視覚に働きかけ、イメージするって感心しました。

「精神科領域における集団および個人へのダンスセラピー」 大沼講師

セラピストは健康な面に注目し、そこをアピールするコミュニケーションは、ことばも大事だが、動きは互いに共感できる原点といえる。「イメージ、妄想」については、精神科領域という点で新しい視点で考える機会を得た。これまで健康な人の育成を対象に考えてきていた自分だったので、具体的で、とても理解しやすかった。

心のわだかまりを解きほぐす。健常者も非健常者もないのだということを痛感した。しかし、精神科の領域においては、きちんとした専門的知識が必要であると症例を見て感じました。「信じる力」を持つ先生の生き方がセラピーそのものを作り上げているのだと思いました。

6時間目 身体障害領域「肢体不自由児・者のためのダンスセラピー」 松原講師

アダプティッドという理念はセラピストを目指すうえで重要な考え方だと思いました。子ども達のダンス（ビデオ）も非常に感銘しました。

一言で障害といっても、特性をよく理解し、ダンスセラピーで何ができるかじっくり考えてみたくなった。障害児教育は教育の原点といわれるところが、よく理解できた。

楽しさと感動を味あわせていただきました。

ダンスは健常者のものではなくて、全ての人のものと言う実感があらためて思いました。

第13回東京大会会計報告

<収 入>		
大会参加者		
学生（一日参加料金）	6,000円×7名	42,000
学生（早割料金）	8,000円×3名	24,000
学生（通常料金）・ 一般（一日参加料金）	10,000円×27名	270,000
会員（早割料金）	12,000円×44名	528,000
会員（通常料金）	14,000円×14名	196,000
一般（早割料金）	15,000円×10名	150,000
一般（通常料金）	16,000円×12名	192,000
懇親会参加者	5,000円×68名	340,000
注文弁当	1,260円×61食	76,860
その他		10,000
宿泊費立替分回収		32,600
	(a)	1,861,460
<支 出>		
施設利用費		199,400
広報費		61,000
通信費		28,530
荷造運賃		5,850
記録費		19,656
人件費		418,000
交通費		41,010
事務消耗品費		42,397
会議費		17,630
懇親会費		239,116
雑費		92,327
参加者注文弁当(理事朝食含)		113,610
返金		72,000
	(b)	1,350,526
大会収益	(a) - (b)	510,934

上記の通り報告いたします。

なお大会収益金の510,934円は、大会基金に寄付いたしました。

平成17年6月

東京大会会長 鹿島由起

研究会報告

第125回 H17年2月20日(日) 9:30-12am

場所: 東京芸術劇場(池袋、以下同)

参加者: 町田章一、永井順子、後藤美智子、大野芳義、大沼小雪

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会
町田章一「第1章 マリアン・チェイス」(1)

第126回 H17年3月13日(日) 9:30-12am

参加者: 後藤美智子、町田章一、山田孝

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会
町田章一「第1章 マリアン・チェイス」(2)

第127回 H17年4月17日(日) 9:30-12am

参加者: 松永のぶこ、町田章一、永井順子、大野芳義、後藤美智子、大沼小雪

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会
町田章一「第1章 マリアン・チェイス」(3)

第128回 H17年5月29日(日) 9:30-12am

参加者: 町田章一、松永のぶこ、松村汝京、大野芳義、後藤美智子、大沼小雪

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会
大沼小雪:「第16章 精神療法:多面的アプローチ」
(1)

町田章一:「第1章 マリアン・チェイス」(4)

第129回 H17年6月12日(日) 9:30-12am

参加者: 大野芳義、町田章一、後藤美智子、大沼小雪

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会
大沼小雪:「第16章 精神療法:多面的アプローチ」
(2)

インフォメーション

編集部より

●記事については崎山へ/ワークショップ等の情報は星野へ/会についての問合せは町田へ/入会

案内や資料請求は事務局へ●次号締切9月末、発行10月末予定●梅田先生の追悼文を読み、胸があつくなりました。最後の最後まで先生は紳士でした。こんなに穏やかでやさしい人を他に知らないくらい、やさしい先生でした。先生がいらっしゃるときに、スタジオを訪れなかったことが本当に悔やまれます。追悼ダンスパーティがあつたら、絶対参加したいと思います。梅田先生、もう一度 Shall We Dance? (オオヌマ) /梅田先生のダンスセラピーへの大きな愛にしみじみ(ゆ) /明るく、楽しく行きましょう。梅田先生の遺志のごとく。(章) /梅田先生、ゆっくりお休み下さい(仁)

JADTA News No. 67 2005年8・9・10月号

発行日: 2005年7月31日

編集部:

崎山ゆかり 星野仁 町田章一

ホームページ: <http://www.jadta.org>

発行: 日本ダンス・セラピー協会

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西 5-10-32

東京福祉専門学校内 JADTA 事務局

tel/fax 03-5605-8283 jadta@tcw.ac.jp

